

## 離島の小動物診療無獣医地区解消への取り組み

黒田 治<sup>†</sup> (一社隠岐の島動物病院院長・とかみ動物病院院長)



隠岐島は、島根半島の北方、40～80kmの日本海に浮かぶ、住民の住む4つの大きな島と他の約180の小島からなる諸島である。円形で最も大きな島を島後、西南方面の西ノ島、中の島、知夫里島の3島を島前と称している。

総面積は350km<sup>2</sup>で、人口は約2万3千人、犬の登録頭数は、平成23年度1,024頭である。隠岐郡内においては、長期間にわたり小動物診療施設のない状態、いわゆる小動物診療の無獣医地区となっていた。このため、病気のペットを抱えた飼い主は、診療・治療の際には、本土の開業獣医師へ往診を依頼するか、または本土(松江市・出雲市または鳥取県米子市・境港市)の動物病院へ通院せざるを得ないため、多くの時間的負担(1日～数日間)と、多額の経済的負担(診療費、交通費、宿泊費等)を強いられていた。

島根県獣医師会では、公益法人への移行を機に隠岐郡内に定期的な診療体制を整えて、救急診療や平時の健康診断などを実施し、無獣医地区を解消することにより、安心して島民の方々が小動物の飼育ができるような取り組みに着手した。平成24年7月に本県の「小動物開業獣医師会」の定期総会の席において、「無獣医地区(隠岐)の診療体制」について意見交換をしたところ、会員から、賛同を得て、検討委員会(理事会)において協議することで決定した。それ以来、平成25年8月まで10回にわたり協議を重ね、設置構想について、東京都小笠原、母島、父島の動物病院を設立された東京都獣医師会の手塚泰文元会長に来県いただき指導をおおきながら、現地の借家下見及び改修構想や診療体制など、具体的な対応について検討を進めた。

その結果、島後である隠岐の島町内に、小動物開業獣医師を中心とした会員数14名(現在15名)で「(一社)隠岐の島動物病院」を設立した。

そして、この間、具体的に病院施設や運営資金等について検討した。病院施設については、参加獣医師等から、手術台をはじめ、血液検査機器、オートクレイブや顕微鏡など多くの検査機器を提供いただき、新規購入を最小

限にとどめることができた。次に、運営資金については、「基金」を募集することで全員一致し、本県の獣医師会会員はもとより、一般の方々から賛同を得て目標金額を達成することができた。

平成25年10月5日、病院の改築、施設整備も整い開院する運びとなり、院内見学会を開院前の3～4日の2日間開催した。予想をはるかに超える飼い主の方々が院内見学に來られ、島民から、安心して大切な動物たちと暮らすことができると期待を受けた。

次に、診療体制については、診療に参加できる獣医師が各自の病院診療を行いながら、島の診療に参加できるよう、ローテーションを組むのが最も大変であった。診療参加獣医師の対応できる状況を勘案して、1カ月から3カ月に1回のローテーションを組んで対応している。

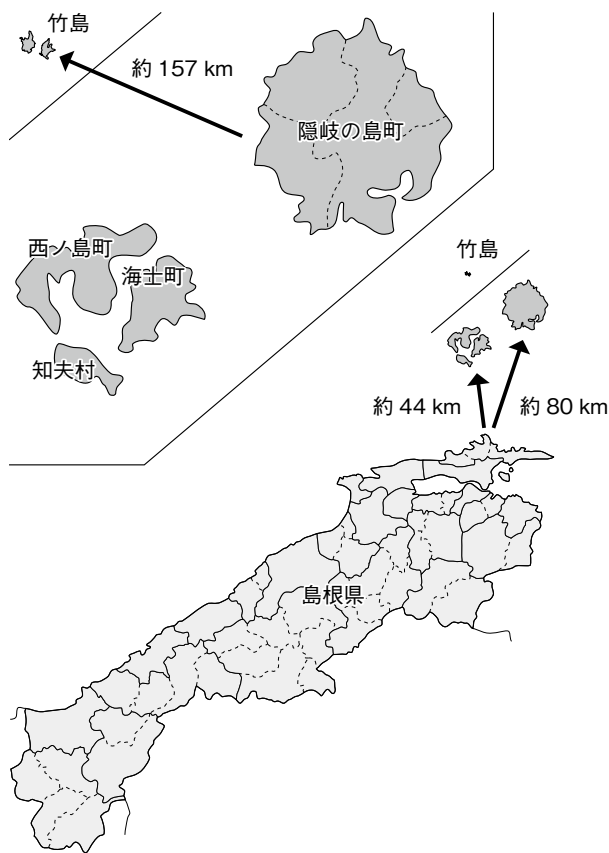


図1 隠岐の島の位置

<sup>†</sup> 連絡責任者：黒田 治 (とかみ動物病院)

〒692-0023 安来市黒井田200-7 ☎0854-23-2505 E-mail : animate2002@iris.ocn.ne.jp



図2 病院の外観



図5 診療室



図3 病院の看板



図6 手術室



図4 待合室

本土から隠岐への交通手段は、船便（フェリー・高速艇）及び飛行機を利用し、診療日は、毎週土曜日・日曜日を原則として、診療時間は、船便を利用している獣医師の場合は、土曜日13～19時、日曜日は9～12時が基本であり、飛行機を利用している獣医師のときは時間帯が変更する。手術がある場合は、土曜日の診察後に実施しており、数件ある場合には、終了が深夜になることもある。

開院当初は、来院されての受付順に診察していたが、不慣れた環境での診察に時間がかかり、来院された飼い主を待たせて迷惑をかけることもあったので、現在では大半が事前予約によりスムーズに診察できるようになっ

ている。

開院してから、1年半を経過したところであるが、毎回、多くの方が来院され、順調に診療件数は伸びている。診療で来院された飼い主の方々から幾度となく感謝の言葉をいただき、私たち獣医師の励みになっている。

今後の課題としては、診療に従事している獣医師が、現在9名とまだ少なく、そのために各獣医師の負担が大きくなっていること。週末のみの診療であるため入院治療が基本的にできない状況であることから、必要がある場合には当番獣医師がペットと一緒に本土に持ち帰り入院治療や手術を実施せざるを得ないこともある。このような現状から新たな担当獣医師の募集、あるいは常駐獣医師の採用等も必要であると考えている。

まだまだ、今の状態が満足のいくものではないが、今後も少しずつ整備をして、地域のペットの診療業務や病気予防のために少しでも貢献するとともに、地域との関わりを維持しながら地元で根付いた動物病院を目指したい。

最後に、隠岐の島動物病院を開院するに当たり島根県獣医師会の今井裕三前会長及び山根一真副会長には多大なご尽力をいただき、また、隠岐の島動物病院の諸先生方も、自身の病院の診療業務を休診にしての協力に対し深く感謝申し上げたい。